

6. 今回の調査結果の分析

今回は、新体力テストの調査が始まって以降、27回分（平成10年度～令和6年度）の「体力・運動能力の総合評価」（A～E）のデータ等を活用し分析を行った。また、令和6年度における「体力・運動能力の総合評価」、「運動・スポーツの実施状況」、「新体力テスト合計点」、「学校時代の運動経験」の結果を活用し、それぞれの関連性について分析した。

（1）各年代における体力・運動能力の総合評価の推移

《調査分析の観点》

平成10年度～令和6年度までの27回分のデータを基に、9歳（小4）、12歳（中1）、15歳（高1）、18歳、35～39歳、55～59歳、75～79歳における、体力・運動能力の総合評価（A～E）の推移を図1～7に示す。なお、第3期スポーツ基本計画において、「新体力テストの総合評価がC以上である児童の割合を80%以上に、生徒の割合を85%以上」にするとの目標が掲げられている。

《主な結果（C以上の割合）》

- （9歳）男女とも 70～80%の範囲で横ばい傾向となっている。令和6年度は男女とも70%前半となっており、目標の80%には届いていない（図5）。
- （12歳）男子では平成15年度以降、60%～70%の範囲で横ばい傾向となっている。内訳をみると、AとBの割合が向上しているが、令和6年度は66.5%となっており目標には届いていない。女子は80%後半～90%前半の高水準を維持し、令和6年度は88.3%と目標を上回った。（図6）。
- （15歳）男子では平成15年度以降、80%台で横ばい傾向となっている。女子では60%前半から70%後半へと向上している。内訳をみると、男女ともAの割合が向上し、Dの割合が低下している（図7）。
- （18歳）男子では平成15年度以降、80%台で横ばい傾向となっている。女子では60%前半から70%中盤へと向上している。内訳をみると、男女ともAとBの割合が向上し、Dの割合が低下している（図8）。
- （35～39歳）男子は、60%台で推移しており、横ばい傾向となっている。女子は、60%後半から50%前半へ低下している。女子の内訳をみると、Bの割合が低下し、Dの割合が向上している（図9）。
- （55～59歳）男女とも 70%前半から80%前半へと向上している。内訳をみると、AとBの割合が向上している（図10）。
- （75～79歳）男女とも 70%前半から90%程度へ向上している。内訳をみると、男女ともにAとBの割合が向上し、Dの割合が低下している（図11）。

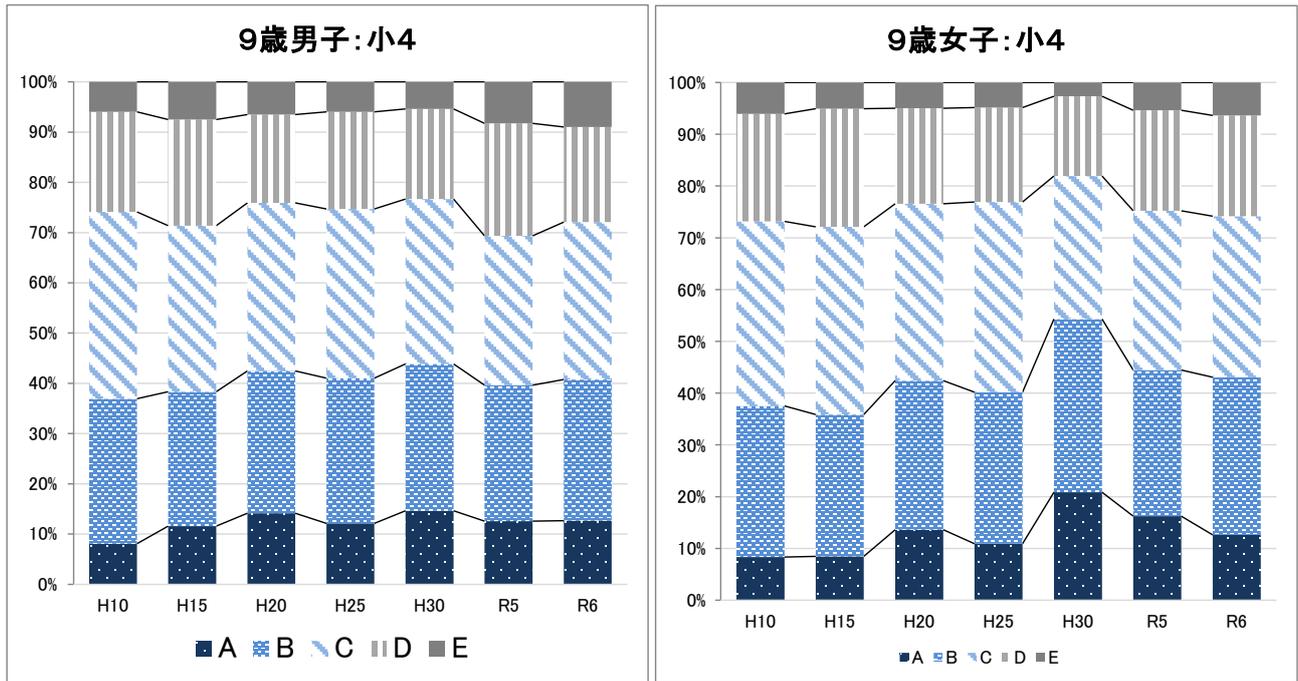


図5. 9歳（小4）の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

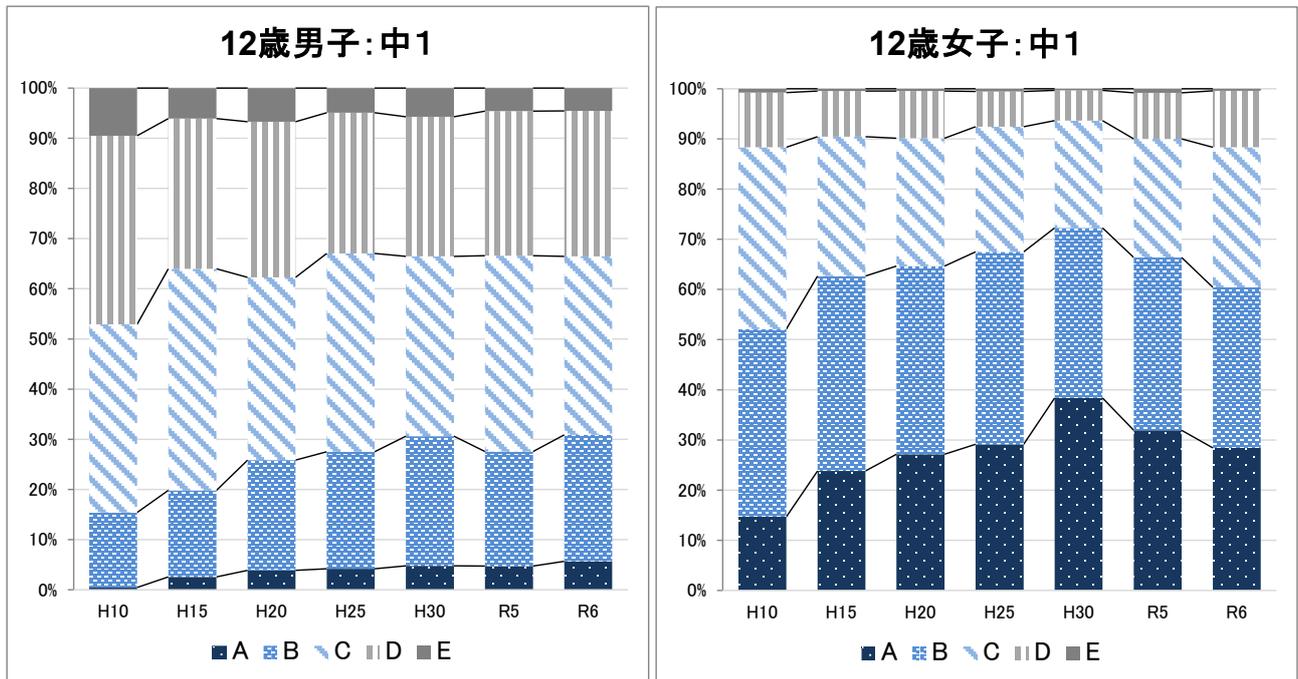


図6. 12歳（中1）の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

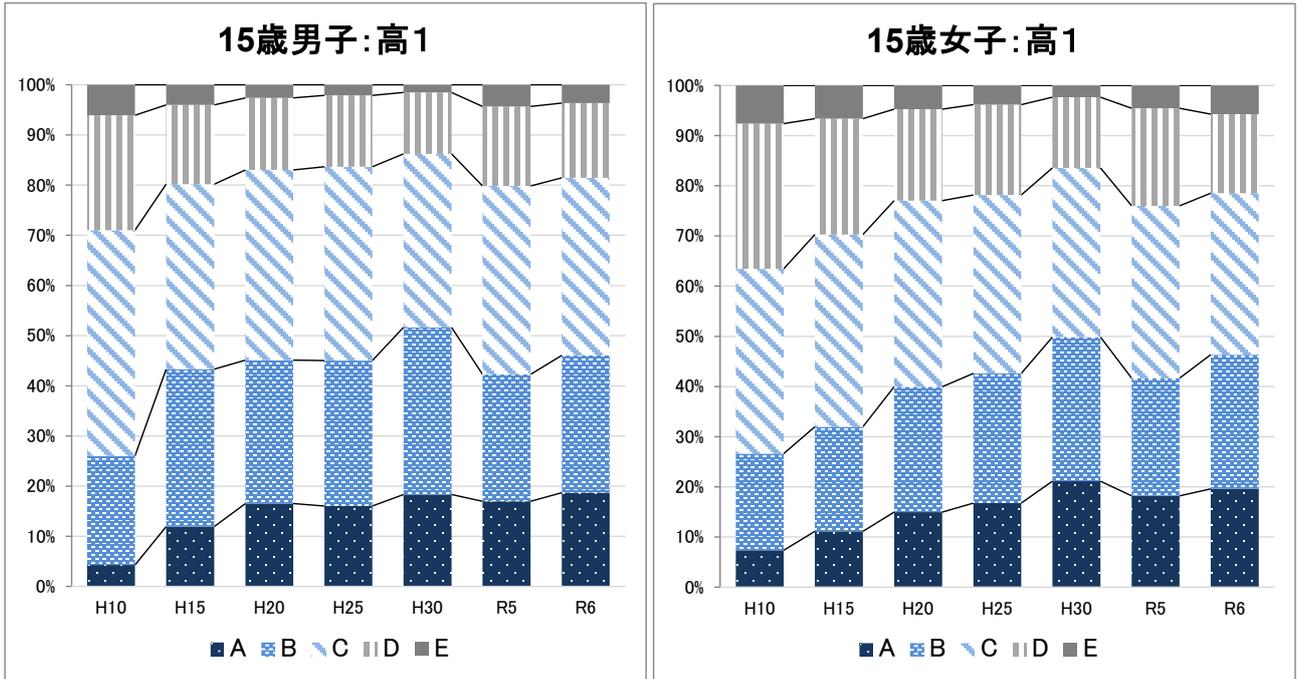


図7. 15歳（高1）の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

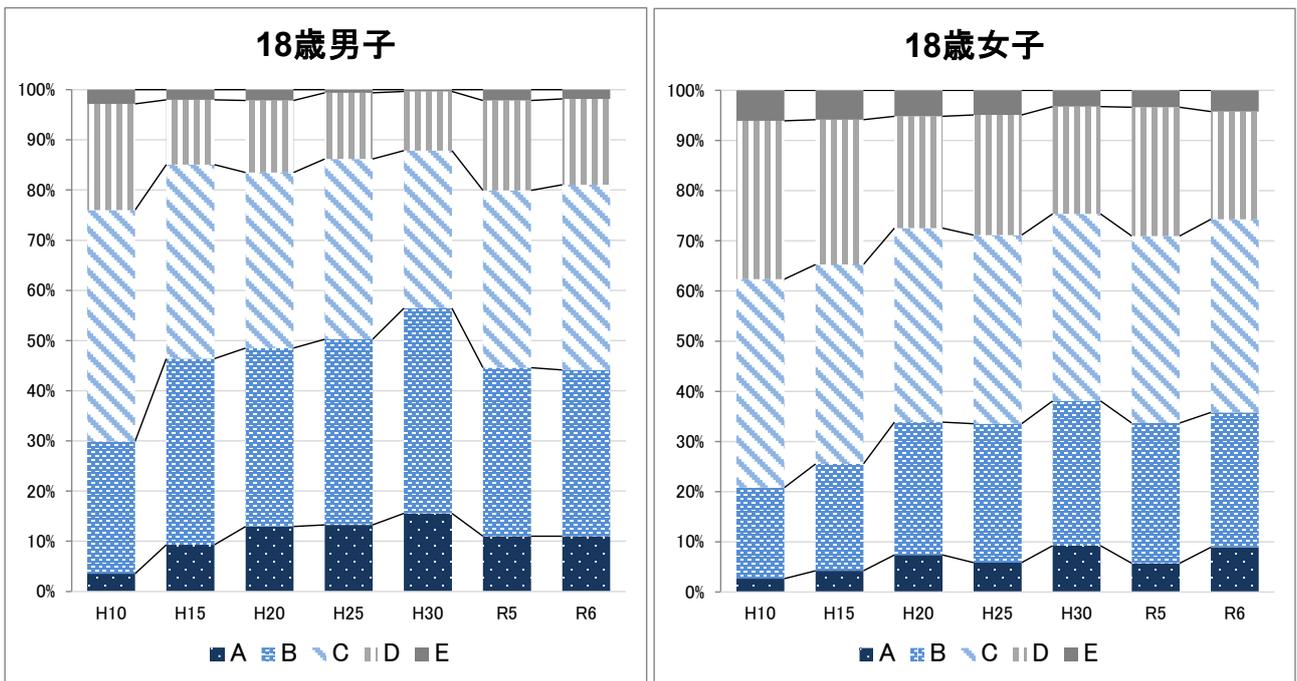


図8. 18歳の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

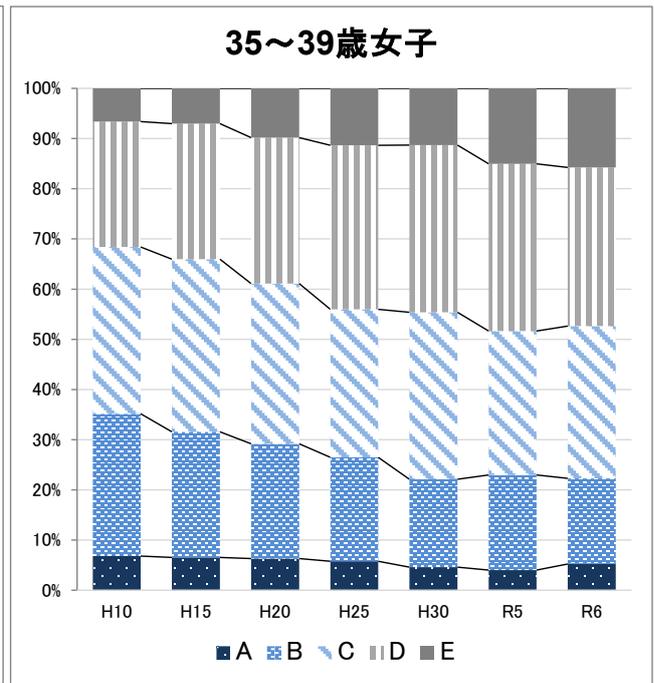
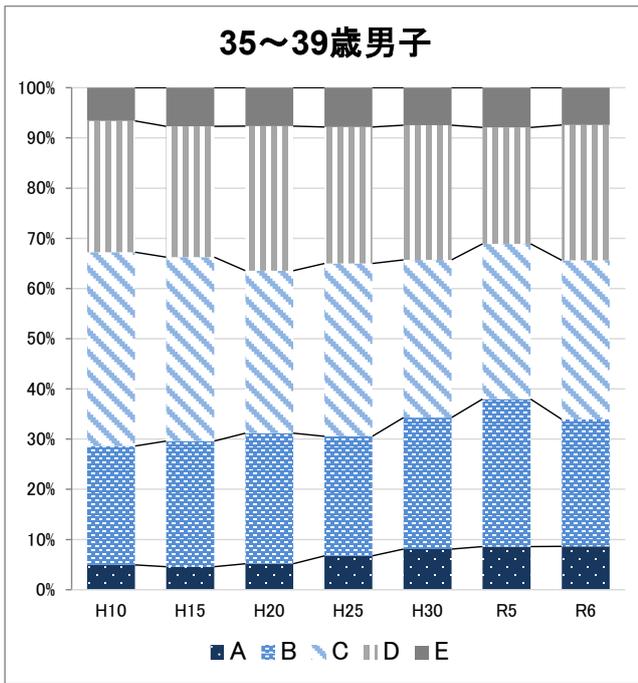


図9. 35～39歳の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

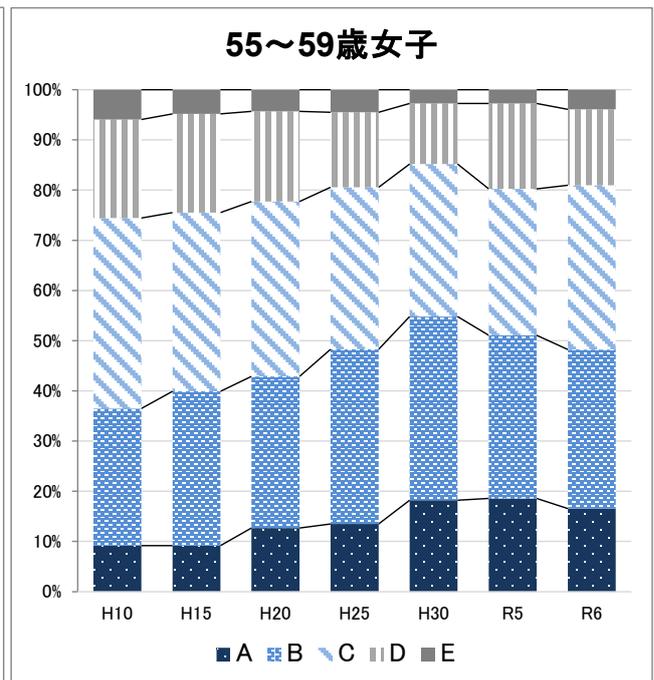
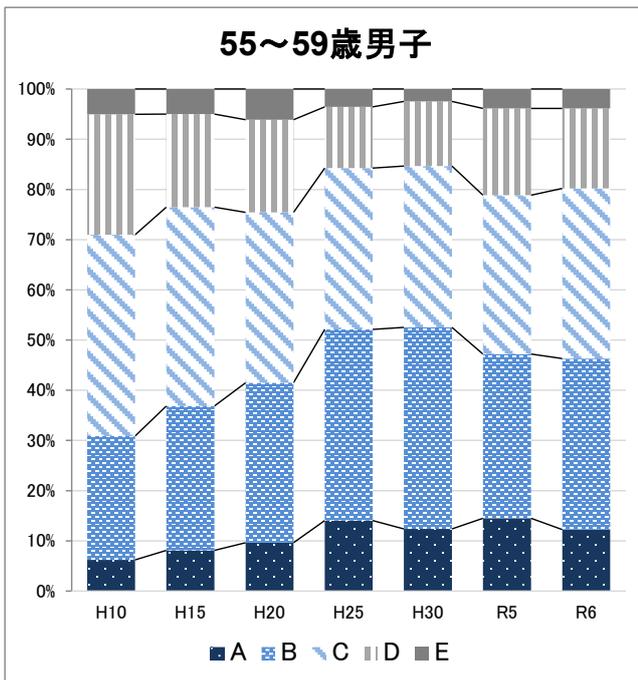


図10. 55～59歳の総合評価の推移（平成10年度～令和6年度）

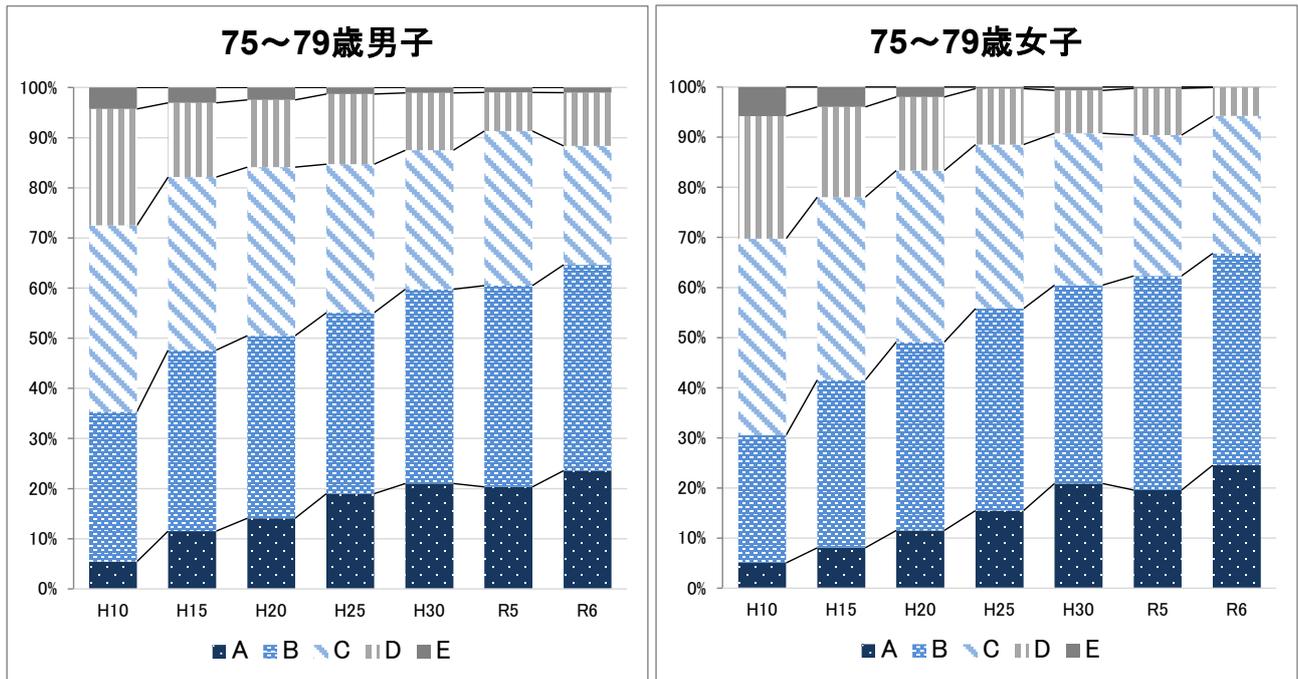


図 11. 75~79 歳の総合評価の推移（平成 10 年～令和 6 年）

(2) 体力・運動能力の総合評価、運動・スポーツの実施状況、新体力テスト合計点、学校時代の運動経験の関連性

《調査分析の概要》

令和6年度における20～64歳の「体力・運動能力の総合評価」別の「運動・スポーツの実施状況」について分析した。また、「学校時代の運動経験」別の「新体力テスト合計点」の差と、20～39歳の「学校時代の運動経験」別の「運動・スポーツの実施状況」について分析した。

《主な結果》

○ 体力・運動能力の総合評価別運動・スポーツの実施状況 (図12～14)

- ・ 全体で見ると、体力が高いほどスポーツ実施率も高い結果となった。特にAの実施率が78.8%に対して、Eが29.0%となり、その差は約50ポイントとなった(図12)。
- ・ 男女別でも同様の傾向が確認され、男子は全体的に女子よりスポーツ実施率が高かった。特に、女子においてはDとEの群の実施率が3割を下回る結果となった(図13、14)。

○ 学校時代の運動経験別の新体力テスト合計点と運動・スポーツの実施状況 (表1、図15～17)

- ・ 学校時代の運動経験別の新体力テストの合計点は、運動経験ありの方が男女とも高くなっており、若い年代ほどその差が大きい結果となった(表1)。
- ・ 20～30代において、学校時代の運動経験がある方が現在の運動・スポーツ実施頻度が高い結果となった。具体的には、運動経験ありの週1日以上の割合が、全体で50.5%に対して、経験なしは33.0%とその差は17.5ポイントとなった。同様に、男子では9.2ポイント、女子では11.5ポイントの差となった(図15～17)。

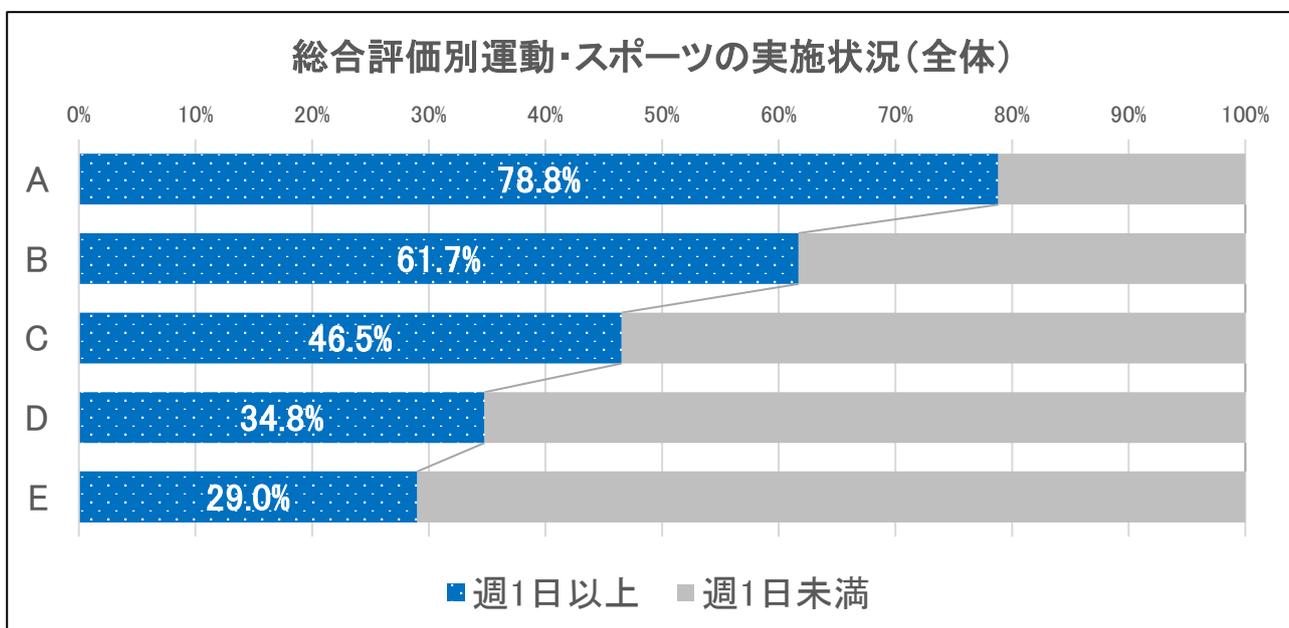


図12 体力・運動能力の総合評価別運動・スポーツの実施状況 (20～64歳全体：週1日以上の割合)

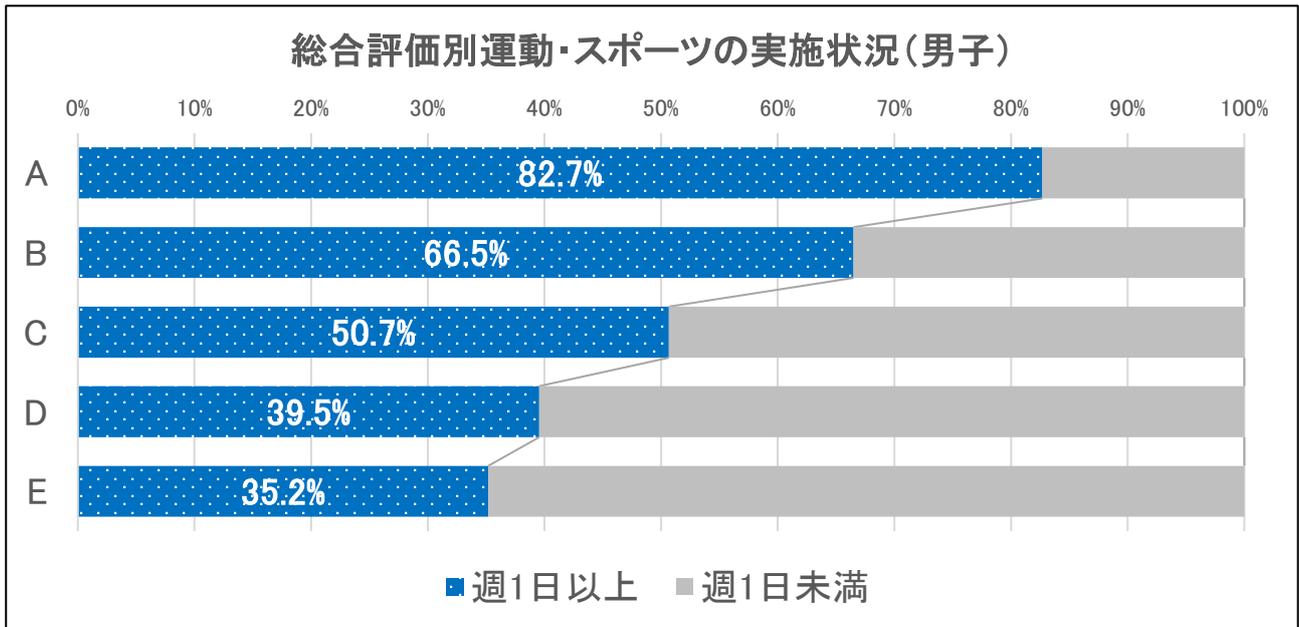


図 13 体力・運動能力の総合評価別運動・スポーツの実施状況 (20~64 歳男子 : 週 1 日以上の割合)

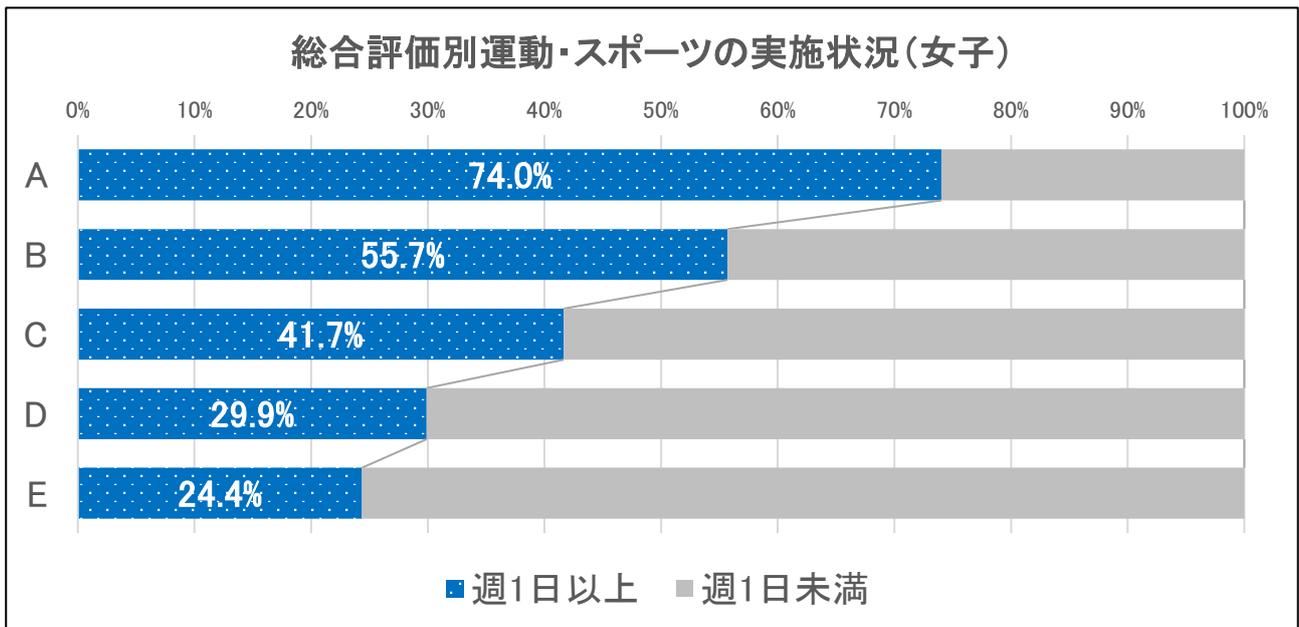


図 14 体力・運動能力の総合評価別運動・スポーツの実施状況 (20~64 歳女子 : 週 1 日以上の割合)

表 1 学校時代の運動経験別新体カテストの合計点（点）

年齢	男子			女子		
	経験あり	経験なし	差	経験あり	経験なし	差
20-24	42.3	33.8	8.5 点	41.6	35.5	6.1 点
25-29	41.3	34.3	7.1 点	40.7	34.2	6.4 点
30-34	39.5	31.7	7.8 点	38.0	33.0	5.0 点
35-39	37.6	33.5	4.1 点	36.1	31.0	5.1 点
40-44	35.0	31.3	3.7 点	34.3	31.5	2.8 点
45-49	33.4	29.2	4.3 点	32.8	29.5	3.3 点
50-54	31.5	29.0	2.5 点	31.8	28.3	3.5 点
55-59	29.1	26.4	2.7 点	30.2	26.5	3.7 点
60-64	27.0	25.7	1.3 点	28.1	26.6	1.5 点
65-69	42.5	40.9	1.6 点	42.8	41.2	1.5 点
70-74	39.9	39.5	0.4 点	40.4	39.2	1.1 点
75-79	36.4	36.7	-0.2 点	38.1	36.2	1.9 点

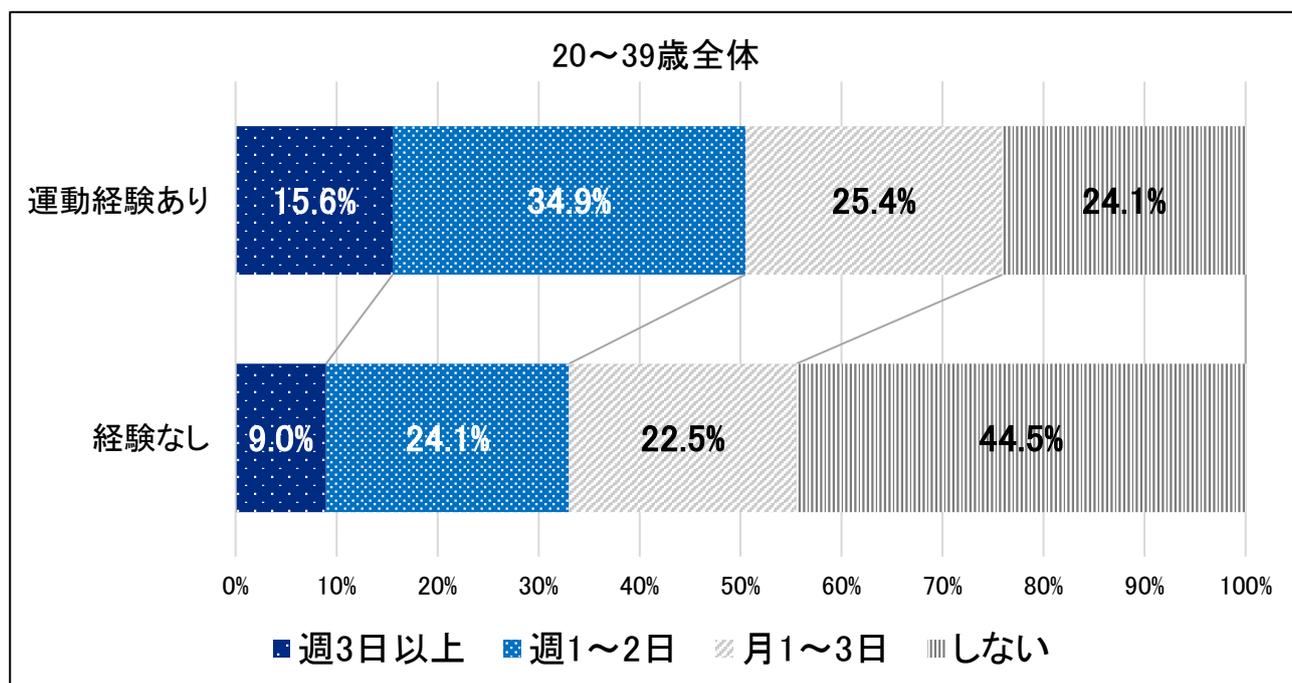


図 15 学校時代の運動経験と現在の運動・スポーツの実施状況（20~39 歳全体）

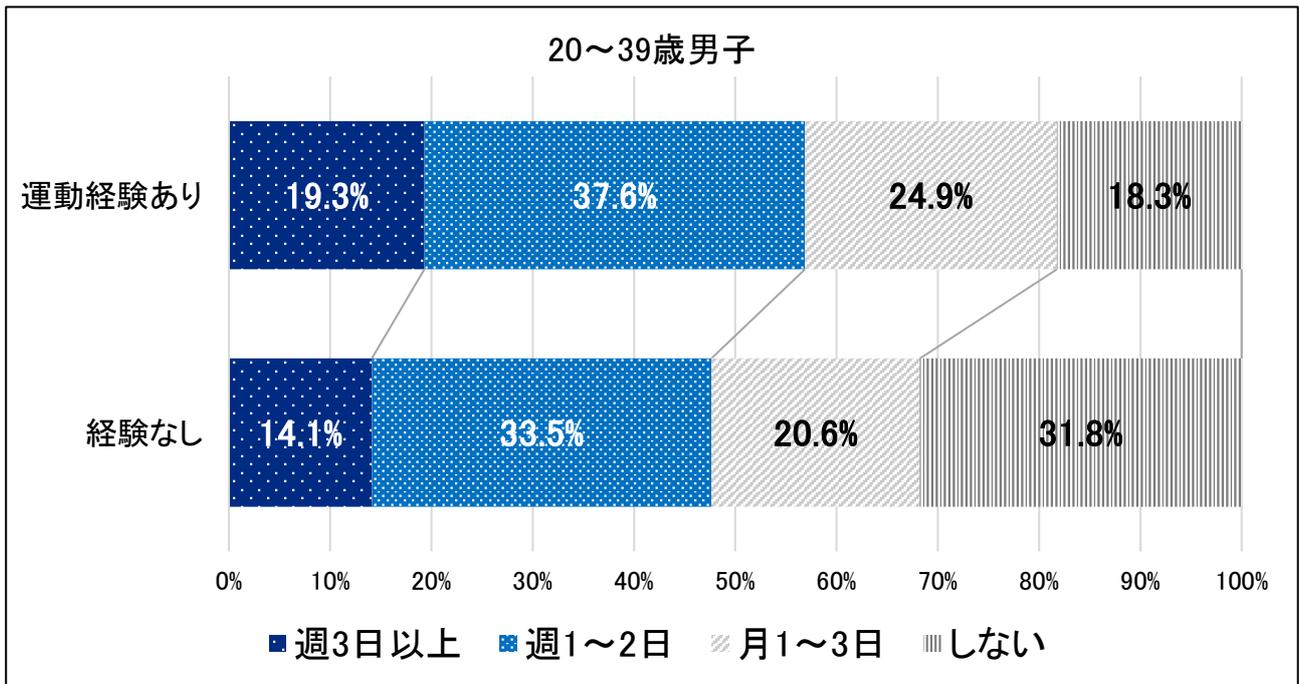


図 16 学校時代の運動経験と現在の運動・スポーツの実施状況（20～39 歳男子）

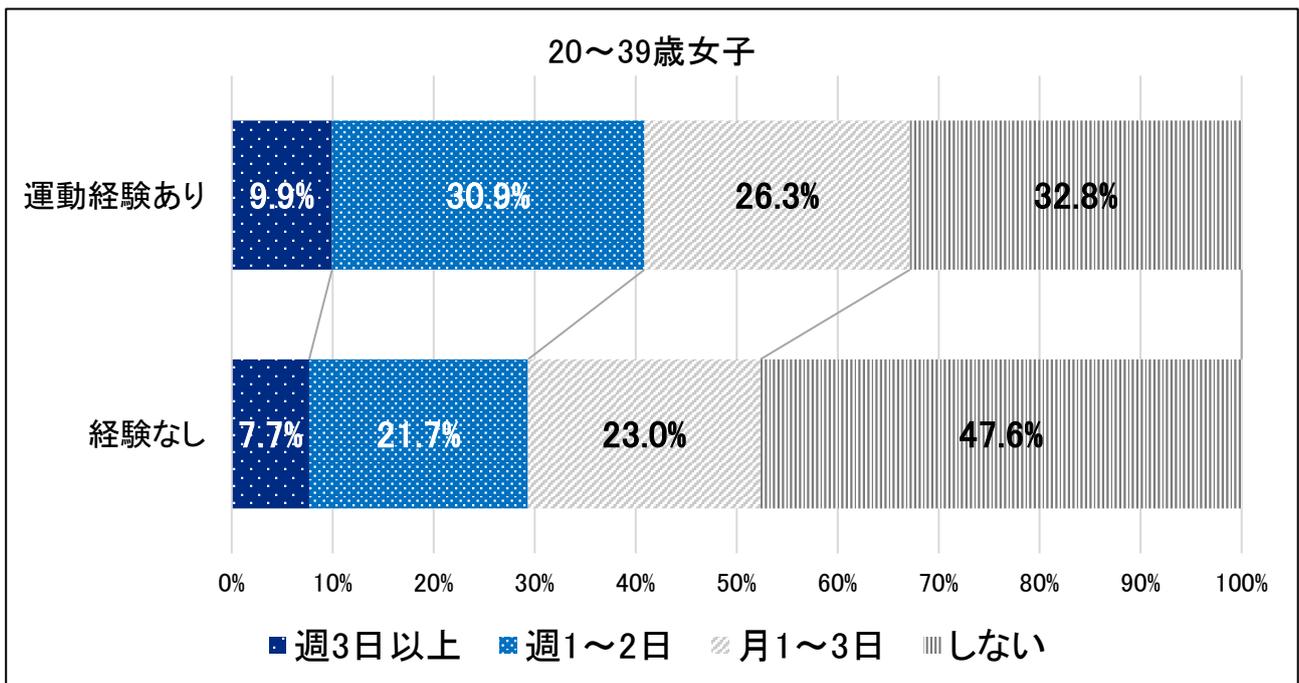


図 17 学校時代の運動経験と現在の運動・スポーツの実施状況（20～39 歳女子）

※図 15～17 について、図の割合は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計して 100%にならない場合がある。